

一 朝 まだ うすぐらい えきで

ぼくは 小さな きつぷを にぎる

手のひらの あせて やわらかく なった
いちまいの きつぷを

二 六年間 通った 校ていの 桜も

いつのまにか 葉ざくらに かわり

みどりの 風が ほおを なでていく
「いってらっしゃい」と いうように

三 ふりむけば まだ 小さな 自分が

ランドセルを せおって 立っている
でも もう もどらない

線ろは まっすぐ 前だけを おいている

四 不安と きたいを 半分ずつ つめて

ぼくは あたらしい 朝へ ふみだす

だいじょうぶ この きつぷは
ぼくが 自分で 買ったのだから



School Stock 『たびだち』より

(1) 第一連で、きつぷが「やわらかく なった」のは、なぜですか。詩の言葉を使って書きましょう。また、そこから、「ぼく」のどんな気持ちが読み取れますか。

(2) 第二連で、みどりの風が『いってらっしゃい』というように「ほおをなでていく、という表現には、どのような工夫が使われていますか。漢字三字で書きましょう。

(3) 第三連の「線ろは まっすぐ 前だけを おいている」は、「ぼく」のどのような気持ちを表していると考えられますか。最も適切なものを一つ選びましょう。

ア 過去にもどりたいと、強くねがう気持ち
イ もどらず、前へ進んでいこうとする気持ち
ウ どこへ行けばよいか、まよっている気持ち
エ 旅に出るのが、めんどろだと思ふ気持ち

(4) 第四連の「不安と きたいを 半分ずつ つめて」からは、たびだつ「ぼく」の、どのような心のように読み取れますか。書きましょう。

(5) この詩の最後の「この きつぷは／ぼくが 自分で買ったのだから」には、「ぼく」のどのような思いがこめられていると考えますか。あなたの考えを書きましよう。

例えば

「自分で決めて選んだ道だから、不安があっても前へ進める、という自分を信じる思い。」

「だれかにたよるのではなく、自分の意志でふみ出すのだ、という決意。」

たびだち

解答

6年 詩 10番

名前

一 朝 まだ うすぐらい えきで

ぼくは 小さな きつぷを にぎる

手のひらの あせて やわらかく なった
いちまいの きつぷを

二 六年間 通った 校ていの 桜も

いつのまにか 葉ざくらに かわり

みどりの 風が ほおを なでていく
「いってらっしゃい」と いうように

三 ふりむけば まだ 小さな 自分が

ランドセルを せおって 立っている
でも もう もどらない

線ろは まっすぐ 前だけを おいている

四 不安と きたいを 半分ずつ つめて

ぼくは あたらしい 朝へ ふみだす

だいじょうぶ この きつぷは
ぼくが 自分で 買ったのだから



School Stock 『たびだち』より

(1) 第一連で、きつぷが「やわらかく なった」のは、なぜですか。詩の言葉を使って書きましょう。また、そこから、「ぼく」のどんな気持ちが読み取れますか。

(例) きつぷを、手のひらのあせてにぎりしめていたから、やわらかくなった。ここから、たびだちを前に、きんちようしている「ぼく」の気持ちが読み取れる。

(2) 第二連で、みどりの風が『いってらっしゃい』というように「ほおをなでていく」という表現には、どのような工夫が使われていますか。漢字三字で書きましょう。

擬人法

(3) 第三連の「線ろは まっすぐ 前だけを おいている」は、「ぼく」のどのような気持ちを表していると考えられますか。最も適切なものを一つ選びましょう。ア 過去にもどりたいと、強くねがう気持ち

イ もどらず、前へ進んでいこうとする気持ち
ウ どこへ行けばよいか、まよっている気持ち
エ 旅に出るのが、めんどろうだと思ふ気持ち

(4) 第四連の「不安と きたいを 半分ずつ つめて」からは、たびだつ「ぼく」の、どのような心のように読み取れますか。書きましょう。

(例) これから始まる新しい生活への不安と、期待の両方を、同時にかけている心のようにす。

(5) この詩の最後の「この きつぷは／ぼくが 自分で買ったのだから」には、「ぼく」のどのような思いがこめられていると考えますか。あなたの考えを書きましょう。

(例) だれかに言われたからではなく、自分で決めて進む道だから、不安があってもまいじょうぶだ、という、自分を信じる強い思い。

例えば

「自分で決めて選んだ道だから、不安があっても前へ進める、という自分を信じる思い。」

「だれかにたよるのではなく、自分の意志でふみ出すのだ、という決意。」

問1 （例）きっぷを、手のひらのあせでにぎりしめていたから、やわらかくなった。ここから、たびだちを前に、きんちょうしている「ぼく」の気持ちが読み取れる。

「手のひらの あせで やわらかく なった」から、きっぷをずっとにぎりしめる、きんちょうや不安の気持ちを読み取ります。

問2 擬人法

風という、人ではないものが、「いってらっしゃい」と言うように、人の動作でえがかれています。これを「擬人法」といいます。

問3 イ

「もう もどらない」「まっすぐ 前だけを むいている」から、過去にもどらず、前へ進もうとする決意が読み取れます。

問4 （例）これから始まる新しい生活への不安と、期待の両方を、同時にかかえている心のようす。

「不安と きたいを 半分ずつ」から、二つの気持ちが入りまじった、たびだちの心を読み取ります。

問5 （例）だれかに言われたからではなく、自分で決めて進む道だから、不安があってもだいじょうぶだ、という、自分を信じる強い思い。

「自分で 買った」を、自分で決断したことの表れととらえ、自立や決意の意を読み取れると、よい読みになります。